

Expedite/CICS V4.5をご利用になる前に

お客様各位

Expedite/CICS 4.5をご利用になる前に  
バージョン・リリース : バージョン4, リリース5

標記プログラムをご使用いただきありがとうございます。  
当プログラムはEDIサービス IE/EX (蓄積情報交換) サービスとともにご利用いただける通信ソフトウェアです。  
プログラムの特性上、NMSに関連する申請などが必要となりますので、同封のプログラム・ディレクトリと併せて当資料をご参照のうえご導入されますようお願い申し上げます。  
なお、ご不明な点がございましたら弊社営業所営業担当員に、その旨お申し付け下さい。

この資料には導入上の注意点が記載されておりますので、ご導入の前に必ずお読み下さい。

\* なお、同封のプログラム・ディレクトリを本文中ではPDと略称で示してあります。

# 目 次

機械可読資料 .....	4
配布テープのフォーマット .....	4
プログラム関連資料 .....	5
前提ハードウェア .....	6
前提ソフトウェア .....	7
導入手順の概略と注意点 .....	8
[1] 導入手順の概略 .....	8
[2] NMSへの登録申請 .....	11
[3] SNA接続定義 .....	12
[3. 1] ACF/VTAM定義 (PD 7に対応) .....	12
[3. 2] TCT定義上の注意点 (PD 9に対応) .....	12
[4] TCP/IP接続定義 .....	13
[4. 1] TCP/IP関連マニュアル .....	13
[4. 2] システム定義 .....	13
[4. 3] CICS定義 .....	13
[4. 4] APPL定義 .....	19
[4. 5] NAT変換 .....	20
[5] サポートされない機能について .....	21

# 機械可読資料

このプログラムは、以下の種類の磁気テープにて配布されます。

- ・ 4mmデータカートリッジ
- ・ 3480カートリッジ

## 配布テープのフォーマット

ボリューム通し番号 : GX0451

ファイル構成 :

プログラム・テープ・ファイルの内容

ボリューム	ファイル順序	ファイル名	内容
GX0451	1	GXS.AGX0451.SMPMCS	SMP/E Control Statement
GX0451	2	GXS.AGX0451.F1	JCLIN
GX0451	3	GXS.AGX0451.F2	Expedite/CICS Single csect
GX0451	4	GXS.AGX0451.F3	Expedite/CICS Data module
GX0451	5	GXS.AGX0451.F4	Expedite/CICS Macros
GX0451	6	GXS.AGX0451.F5	Expedite/CICS サンプルJCL
GX0451	7	GXS.AGX0451.F6	導入JCL
GX0451	8	GXS.AGX0451.F7	Expedite/CICS ヘルプ°テキストファイル

# プログラム関連資料

以下の基本資料が同封されます。

追加購入及び参考資料を購入される場合は、有料となります。

## [基本資料]

• Expedite/CICS Display Application User's Guide	(GC34-3303)	1部
• Customizing and Developing Applications for Expedite/CICS	(GC34-3304)	1部
• Expedite/CICS Messages	(GC34-2331)	1部
• Program Directory for Expedite/CICS for MVS	(GX10-5282)	1部
• Information Exchange Messages and Formats	(GC34-2324)	1部
• Information Exchange Charges Reference	(GX66-0653)	1部

## [参考資料]

• EDIサービス<IE/EX> 概説書	(GXS-I001)
• EDIサービス<IE/EX> IE/EXプロトコルご利用の手引き	(GXS-I002)
• EDIサービス<IE/EX> V2.3 サービス管理責任者 ご利用の手引き	(GXS-I003)

# 前提ハードウェア

Expedite/CICSのインストール作業及びインストール先のシステムに必要なハードウェアは次の通りです。（当プログラムのご使用は、IE/EXホストとの接続を完了していることが前提となります。）

- ・IBM zSeries（前提となるソフトウェアが稼動する環境）
- ・通信制御装置（SNA接続）
- ・セキュアIP WAN接続するためのハードウェア（TCP/IP接続）

<導入に必要なディスク・スペース>

配布テープにはプログラムの他、サンプルのCICS資源定義テーブルやJCL等が含まれています。導入時に必要なディスク・スペースは、以下の通りです。

ライブラリー名	ファイル編成	レコード形式	レコード長	総トラック数	ディレクトリ ブロック数
SEXLOAD	PDS	U	0	90	50
SEXPSMP	PDS	FB	80	25	5
SEXPSAMP	PDS	FB	80	20	20
SEXPDATA	PDS	FB	80	40	50
SEXPMAC	PDS	FB	80	10	5
SEXPHELP	PDS	VB	2000	15	2
AEXPLOAD	PDS	U	0	90	50
AEXPDATA	PDS	FB	80	40	50
AEXPSAMP	PDS	FB	80	20	20
AEXPMAC	PDS	FB	80	10	5
AEXPHELP	PDS	VB	2000	15	2

\* DASD容量として別途、ユーザー送受信ファイル用のスペースが必要です。

# 前提ソフトウェア

Expedite/CICSのインストール作業及びインストール先のシステムに必要なソフトウェアは次の通りです。（当プログラムのご使用は、IE/EXホストとの接続を完了していることが前提となります。）

- z/OS V1.04 (5694-A01)  
導入時にSMP/E（拡張システム修正変更プログラム）を使用
- CICS Transaction Server for OS/390  
V1.3 (5655-147)
- CICS Transaction Server for z/OS  
V2.2 or V2.3 (5697-E937)

# 導入手順の概略と注意点

この章は同封のプログラム・ディレクトリと併せてご参照下さい。

## [1] 導入手順の概略

以下の手順に沿って、E x p e d i t e / C I C S の導入を行って下さい。新規導入の場合の手順を示してありますが、旧バージョンから移行される場合は、仕掛かり状態の送受信及びユーザーのセッションがすべて正常に終了したことを確認した上で、新規導入を行って下さい。なお、導入手順の詳細につきましては、同封のプログラム・ディレクトリをご参照下さい。各矢印→の後に参照ページを示します。また、旧バージョンからの移行に関してはプログラム・ディレクトリ (PD) 5. 4 をご参照下さい。

### NMS への登録

ご契約の際に次の登録申請を記入し、提出していただきます。

- 『NMS SNAホスト接続登録申請書』(SNA接続で新規接続の場合のみ)
- 『NMS<NS>アプリケーション登録申請書』(SNA接続)
- 『NMS<IE/EX>LU6ホスト登録申請書』(SNA接続)
- 『NMS<IE/EX>ユーザー登録申請書』(SNA, TCP/IP接続共通)
- 『セキュアIP WAN CSR登録申請書(フォーム2)』(TCP/IP接続)

→当ガイド [2] NMS への登録 参照

### 配布テープの導入作業 (SMP / E による導入)

配布テープからプログラムを導入します。

→ PD 5. 1 Installing Expedite/CICS 参照

- 導入ライブラリーのロード
- データセットのアロケーション
- SMP / E による導入

注意：

- ・ PD 5. 2. 4 の DDDEF についてお客様の環境に合わせて編集する際に一部名称の変更が必要となりますのでご注意ください。

- ・ アセンブラプログラム名の変更(3箇所)

ADD OPTIONS (IDSOPT)

ASM(IEV90) ←OS390(MVS 5.2以降)ではASMA90に名称変更されています。

...

ADD UTILITY(IEV90) NAME(IEV90) ←これも変更します。

- ・ ユーザーMVS、C I C S 環境についてはお客様のご導入担当者の方にご確認下さい。
- ・ 最新のP T F 情報につきましては別途NMS ニュースレター等でお知らせします。

### 通信定義

通信の方法に応じていずれかの定義を行って下さい。

SNA接続の場合 →当ガイド [3] SNA接続定義 参照

TCP/IP接続の場合 →当ガイド [4] TCP/IP接続定義 参照

□ アプリケーション・ファイルの定義

Expedite/CICSで用いられるアプリケーション・ファイルの定義を行います。各詳細についてはPD 6 Application installation verification and customization を参照して下さい。

□ EXPDPTFファイルの定義

バッチ送信/受信時の制御ファイルを定義します。

→PD 6.1.6 Defining the EXPDPTF date set 参照

□ EXPDERRファイルの定義

Expedite/CICSで用いられるシステムオプションの値が格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.7 Defining the EXPDERR date set 参照

□ EXPDSRCファイルの定義

送受信制御レコードやユーザー・プロファイルが格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.8 Defining the Send/Receive/Control date set 参照

□ EXPRDATファイルの定義

受信データが格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.9 Defining the Receive Data date set 参照

□ EXPDATファイルの定義

送信データを格納するファイルを定義します。

→PD 6.1.10 Defining the Send Data date set 参照

□ EXPHPHPファイルの定義

Expedite/CICSのパネルで表示されるヘルプテキストが格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.11 Defining the Help Text date set 参照

□ EXPDTSTファイルの定義

テスト用のサンプルデータが格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.12 Defining a test ESDS VSAM file 参照

注意：圧縮/解凍機能はサポートされていないため、PD 6.1.13 Lookup Tableの定義は不要です。

TCP/IP機能を使用する場合には、さらに次のファイル定義が必要となります。

□ EXPDKEYファイルの定義

TCP/IP通信に必要なIDキー情報が格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.14 Defining the TCP/IP EXPDKEY VSAM file 参照

□ EXPDPRMファイルの定義

TCP/IP通信に必要なパラメータ情報が格納されるファイルを定義します。

→PD 6.1.15 Defining TCP/IP Override parm sequential data set EXPDPRM 参照

注意：EXPDPARM内で指定するパラメーターは、お客様のTCP/IP環境と一致させる必要があります。パラメーターは以下の指定の値を設定して下さい。

VALUE OF COMM (COL 1-3) ' T C P ' と指定して下さい。

USER IP ADDR (COL 8-22) ユーザー側のIPアドレスを指定して下さい。

USER PORT NUMBER (COL 23-27)

国内IE/EXからの接続用として' 0 3 0 0 5 'を指定して下さい。

IE IP ADDR (COL 46-60)

国内IE/EXへの接続用として' 1 6 6 . 1 0 0 . 6 5 . 3 3 'を指定して下さい。

IE PORT NUMBER (COL 61-65)

国内IE/EXへの接続用として' 0 3 0 0 3 'を指定して下さい。

#### □ C I C Sスタート・アップJCLの変更

作成したVSAMファイルをスタート・アップJCL上に定義します。

PD 6.1.17 Installing the display application menu definitions のカスタマイズは、必要に応じ実施して下さい。

→PD 6.1.16 JCL for Expedite/CICS files 参照

注意：TCP/IP通信を行う場合、EXPKEY, EXPDPARM, EXPTCPIPの定義も必要です。

#### □ C I C S資源定義テーブルの修正

C I C Sテーブル内に、E x p e d i t e / C I C Sとして必要な資源を追加定義します。資源定義の必要なテーブルは次の通りです。

System Initialization Table	(SIT)
Program List Table	(PLT)
Terminal Control Table	(TCT)
Program Control Table	(PCT)
Program Processing Table	(PPT)
File Control Table	(FCT)
Destination Control Table	(DCT)

SNA接続の場合のTCT定義については、NMSサービス特有の定義があるため、当ガイド [3. 2] TCT定義上の注意点を参照して下さい。

S I T定義については、START=AUTO 使用時には、必ず次のパラメーターを追加して下さい。指定が無い場合、バッチ送信モニターが2重に起動されることがあります。 ICP=COLD

C I C SにE x p e d i t e / C I C Sを定義するには、次のいずれかの方法で行います。

- 現在ご使用のテーブルに Expedite/CICSの資源定義用のコピーブックを追加し、再アセンブルする。それらをCSDあるいはSITに定義する。  
→PD 8 Resource definition tables 参照
- オンライン資源定義を用いてオンラインでサポートされている資源定義を追加導入する。  
→PD 9 Resource definitions online 参照

□ 導入検証、接続テスト

→PD 6.1.2 Installation verification 参照

注意：導入検証にあたってはマニュアル『Expedite/CICS Display Application User's Guide』も併せてご参照下さい。

## [2] NMSへの登録申請

『NMS<IE/EX>ユーザー登録申請書』に登録するユーザーIDを記入し、接続するIEシステムと[EXP/CICS]欄にチェックして、提出します。

### ■ SNA接続の場合

- (1) ホスト登録がまだ完了していない場合は、『NMS SNAホスト接続登録申請書』に所定の事項を記入の上、提出します。  
(NMS導入ガイドーホスト接続編 参照)
- (2) 『NMS<NS>アプリケーション登録申請書』に、Expedite/CICSで使用するプロダクト名、プロダクトLU、及びお客様のNET ID、CDRM名を記入の上、提出します。
- (3) 『NMS<IE/EX>LU6ホスト登録申請書』に所定の事項を記入し提出します。

#### ■ 所属システム

- ・ [  ユーザーHOST ] にチェック (レ)

#### ■ ソフトウェア情報

- ・ [  LU-6. 2 ] にチェック (レ)
- ・ [  EXP/CICS ] にチェック (レ)
- ・ S/Wレベルに ' V 4 . 5 ' を記入。
- ・ 国内IE使用の場合： [  IE ] にチェック (レ)
- ・ 国際IE使用の場合： [  国際IE ] にチェック (レ)

#### ■ プロダクト情報 <顧客ホスト側>

- ・ プロダクト名/プロダクトLU欄に、Expedite/CICSが導入されるお客様のCICSのAPPL-LU名を記入。
- \* 登録後、顧客ホスト登録情報やIE/EXホスト登録情報が記入され、申請元へ戻されます。

### ■ TCP/IP接続の場合

- (1) 『セキュアIP WAN CSR登録申請書 (フォーム3) 』に以下の内容を記入の上、提出します。(以下参照)
  - Preset static IP route欄の宛先名 Expedite の左側
    - ・ [  新規 ] にチェック (レ)
  - コメント欄に ' EXP/CICS ' と記入

### [ 3 ] SNA 接続定義

#### [ 3. 1 ] ACF/VTAM定義 (PD 7に対応)

同封のプログラム・ディレクトリと一部内容が異なりますのでご注意ください。

- (1) Application program major node  
下記のサンプルを参照し、定義して下さい。

label	VBUILD	TYPE=APPL
applid	APPL	PARSESS=YES, AUTH=(ACQ, VPACE), ACBNAME=applid, EAS=160, VPACING=2, MODETAB=modeisc

次の項目については、下記の値をご指定下さい。

label	:	任意の名前
applid	:	Expedite/CICSのプロダクトLU名
modeisc	:	次のLOGMODEテーブルのエントリー名

- (2) MODE table

MODE tableは下記のサンプルを参照し、定義して下さい。

modeisc	MODETAB
IINAPPC	MODEENT LOGMODE=IINAPPC
SNASVCMG	MODEENT LOGMODE=SNASVCMG
MODEEND	
	END
	MODETAB

#### [ご注意] 旧バージョンから移行されるお客様へ

新たにLU名を取得されずに、旧バージョンのLU名を用いられる場合には、旧バージョンでお使いになっていた LOGMODE名 (ISC) はそのまま継続してお使い下さいますようお願いいたします。新たにLU名を取得したり、新規の導入をされる場合は上記テーブル例の通り IINAPPC となります。

#### [ 3. 2 ] TCT定義上の注意点 (PD 9に対応)

TCT定義については、NMSサービス特有の定義があるため次の点に注意して下さい。  
TCTコピーブックEXPXTCTSにあるサンプルを使用される場合も変更が必要です。

#### [変更点]

エントリー名 DFHTCT 内の NETNAME = IBMORELY を以下へ変更して下さい。

国内IE/EXを使用される場合は NETNAME = QZQB62I1

国際IEを使用される場合は NETNAME = QZQB62I2

NETNAME : プロダクトLU名

<「LU6ホスト登録申請書」で、返却時に記入されたIE/EXホスト欄のプロダクトLU名>

#### [ご注意]

MODENAMパラメーターについては、新規導入の場合 MODENAM=IINAPPC のままで変更の必要はありません。旧バージョンを置き換えて導入される場合は、従来の定義 MODENAM=ISC をそのままご使用下さい。IINAPPCご使用されますとネットワーク上の定義が重複するため正常に接続できません。

## [ 4 ] T C P / I P 接 続 定 義

T C P / I P 通 信 の 定 義 は、お 客 様 の 環 境 と E x p e d i t e / C I C S の 設 定 に よ り 異 な り ます。P D 7.2 TCP/IP communications を ご 参 照 の 上、お 客 様 の 環 境 に あ わ せ て 設 定 し て 下 さ い。以 下 の 関 連 マ ニ ュ ア ル 及 び 定 義 例 も 参 考 に し て 下 さ い。

( S N A 接 続 か ら T C P / I P 接 続 へ 変 更 時、プ ロ グ ラ ム の 変 更 は 必 要 あ り ませ ん。 )

### [ 4. 1 ] T C P / I P 関 連 マ ニ ュ ア ル

T C P / I P 通 信 に 関 連 す る マ ニ ュ ア ル は 以 下 の 通 り で す。

- ・ 『TCP/IP V3R2 FOR MVS CICS TCP/IP SOCKET INTERFACE GUIDE』 (SC31-7131)
- ・ 『OS/390 SecureWay Communications Server IP CICS ソケットの手引き V2R8』 (SD88-7851)

### [ 4. 2 ] シ ス テ ム 定 義

P R O F I L E . T C P I P に 以 下 を 追 加 し ます。

( U S E R P O R T N U M B E R は ‘ 3 0 0 5 ’ 以 降 を 指 定 し て く だ さ い。 )

PORT 3005 TCP xxxxxxxx	;	CICS Socket	<= xxxxxxxxはCICSのJOB名
---------------------------	---	-------------	-----------------------

### [ 4. 3 ] C I C S 定 義

C I C S に 追 加 す る 定 義 で す。C I C S T S 1. 3 で の 定 義 を 元 に し て い ます。既 に 定 義 が 既 存 の も の も あ り ます。各 パ ラ メ ー タ ー に つ い て は 参 考 値 と な り ます。

< C I C S 定 義 E Z A C O N F G >

E Z A C O N F G に 以 下 を 定 義 し ます。

//SYSIN DD *			
EZACICD TYPE=INITIAL,	Initialize generation environment	X	
PRGNAME=EZACICDF,	Name of the generated program	X	
FILNAME=EZACONFG	DD name of the configuration file		
EZACICD TYPE=CICS,	Generate configuration record	X	
APPLID=xxxxxxx,	APPLID of CICS	X	<=CICSのAPPLID
TCPADDR=TCPIP,	Address space name for TCP/IP	X	<=TCP/IP for MVSJOB名
NTASKS=20,	Number of reusable MVS subtasks	X	
DPRTY=10,	Priority difference (CICS-Subtask)	X	
CACHMIN=10,	Minimum refresh time for CACHE	X	
CACHMAX=20,	Maximum refresh time for CACHE	X	
CACHRES=5,	Maximum number of active resolvers	X	
ERRORTD=TCPM	Name of TD queue for error messages		
EZACICD TYPE=LISTENER,	Create Listener Record	X	
APPLID=xxxxxxx,	APPLID of CICS	X	<=CICSのAPPLID
TRANID=LSTN,	Use standard transaction ID TCP1	X	<=ListenするTRAN名
PORT=3005,	Use port number 1520	X	<=ListenするPort名
BACKLOG=40,	Set backlog value to 40	X	
ACCTIME=30,	Set timeout value to 30 seconds	X	
GIVTIME=10,	Set givesocket timeout to 10 seconds	X	
REATIME=300,	Set read timeout to 5 minutes	X	
NUMSOCK=100,	Support 99 concurrent connections	X	
MINMSGL=4	Minimum input message is 4 bytes		
EZACICD TYPE=FINAL			

\* サンプルは xxxxx.TCPIP.SEZAINST(EZACICFG) にあります。

<C I C S 定義 P L T 確認>

P L T ( C I C S 用) が以下のように定義されていることを確認します。

```
*-----*
*          P R O G R A M   L I S T   T A B L E          *
*          C I C S   H O S T   I N T E R F A C E        *
*
* CHANGE HISTORY -                                     *
*          RELEASE 4.3.0 CHANGES                       *
*          RELEASE 4.4.0 CHANGES                       *
*          REMOVE SUPPORT FOR CICS 3.3 AND BELOW        *
*-----*
*          TITLE 'PLT FOR EXPEDITE/CICS 4.5.0 '
*          PRINT NOGEN
*          DFHPLT TYPE=INITIAL,                          &
*          SUFFIX=PI
*
*          TABLE ENTRIES FOR:-
*****
*****          C I C S   H O S T   I N T E R F A C E   E N T R I E S          *****
*****          *****
* THIRD STAGE OF INITIALIZATION.                        *
*****
***          SPACE 1
          DFHPLT TYPE=ENTRY, PROGRAM=DFHDELIM
          SPACE 1
          DFHPLT TYPE=ENTRY, PROGRAM=EXPOSTRT
          SPACE 1
          DFHPLT TYPE=FINAL
          END
```

- \* サンプルは HOCA450.SEXPMAC(EXPPLTPI) にあります。  
EZACIC20は EXPOSTRTより起動されますので、指定する必要はありません。

< C I C S 定義 P C T 追加 >

P C T ( C I C S 用 ) に以下を定義します。

```
DEFINE TRANSACTION (EZAC) GROUP (EXPPCTS)
DESCRIPTION (FOR TCP/IP)
PROGRAM (EZACIC23) TWSIZE (0) PROFILE (DFHCICST) STATUS (ENABLED)
TASKDATALOC (ANY) TASKDATAKEY (USER) STORAGEECLEAR (NO)
RUNAWAY (SYSTEM) SHUTDOWN (DISABLED) ISOLATE (YES) DYNAMIC (NO)
ROUTABLE (NO) PRIORITY (255) TRANCLASS (DFHTCLOO) DTIMOUT (200)
RESTART (NO) SPURGE (YES) TPURGE (YES) DUMP (YES) TRACE (YES)
CONFDATA (NO) ACTION (BACKOUT) WAIT (YES) WAITTIME (0, 0, 0)
RESSEC (NO) CMDSEC (NO)
DEFINE TRANSACTION (EZA0) GROUP (EXPPCTS)
DESCRIPTION (FOR TCP/IP)
PROGRAM (EZACIC00) TWSIZE (0) PROFILE (DFHCICST) STATUS (ENABLED)
TASKDATALOC (ANY) TASKDATAKEY (CICS) STORAGEECLEAR (NO)
RUNAWAY (SYSTEM) SHUTDOWN (DISABLED) ISOLATE (YES) DYNAMIC (NO)
ROUTABLE (NO) PRIORITY (255) TRANCLASS (DFHTCLOO) DTIMOUT (100)
RESTART (NO) SPURGE (YES) TPURGE (YES) DUMP (YES) TRACE (YES)
CONFDATA (NO) ACTION (BACKOUT) WAIT (YES) WAITTIME (0, 0, 0)
RESSEC (NO) CMDSEC (NO)
DEFINE TRANSACTION (EZAP) GROUP (EXPPCTS)
DESCRIPTION (FOR TCP/IP)
PROGRAM (EZACIC22) TWSIZE (0) PROFILE (DFHCICST) STATUS (ENABLED)
TASKDATALOC (ANY) TASKDATAKEY (CICS) STORAGEECLEAR (NO)
RUNAWAY (SYSTEM) SHUTDOWN (DISABLED) ISOLATE (YES) DYNAMIC (NO)
ROUTABLE (NO) PRIORITY (255) TRANCLASS (DFHTCLOO) DTIMOUT (100)
RESTART (NO) SPURGE (YES) TPURGE (YES) DUMP (YES) TRACE (YES)
CONFDATA (NO) ACTION (BACKOUT) WAIT (YES) WAITTIME (0, 0, 0)
RESSEC (NO) CMDSEC (NO)
```

\* サンプルは xxxxx.TCPIP.SEZAINST (EZACICPT) にあります。

P C T ( A P P L 用 ) に以下を定義します。

```
DEFINE TRANSACTION (LSTN) GROUP (EXPPCTS)
DESCRIPTION (EXP/CICS LISTENER)
PROGRAM (EXPOLSTN) TWSIZE (0) PROFILE (DFHCICST) STATUS (ENABLED)
TASKDATALOC (BELOW) TASKDATAKEY (USER) STORAGEECLEAR (NO)
RUNAWAY (SYSTEM) SHUTDOWN (DISABLED) ISOLATE (YES) DYNAMIC (NO)
ROUTABLE (NO) PRIORITY (1) TRANCLASS (DFHTCLOO) DTIMOUT (400)
RESTART (NO) SPURGE (YES) TPURGE (NO) DUMP (YES) TRACE (YES)
CONFDATA (NO) ACTION (BACKOUT) WAIT (YES) WAITTIME (0, 0, 0)
RESSEC (NO) CMDSEC (NO)
DEFINE TRANSACTION (TCHD) GROUP (EXPPCTS)
DESCRIPTION (EXP/CICS CHILD TASK)
PROGRAM (EXPOTCHD) TWSIZE (0) PROFILE (DFHCICST) STATUS (ENABLED)
TASKDATALOC (BELOW) TASKDATAKEY (USER) STORAGEECLEAR (NO)
RUNAWAY (SYSTEM) SHUTDOWN (DISABLED) ISOLATE (YES) DYNAMIC (NO)
ROUTABLE (NO) PRIORITY (1) TRANCLASS (DFHTCLOO) DTIMOUT (400)
RESTART (NO) SPURGE (YES) TPURGE (NO) DUMP (YES) TRACE (YES)
CONFDATA (NO) ACTION (BACKOUT) WAIT (YES) WAITTIME (0, 0, 0)
RESSEC (NO) CMDSEC (NO)
```

\* サンプルは HOCA450.F5 (EXP4xT45) にあります。

但し、サンプル内は TASKDATAKEY (CICS) ですが、LSTN, TCHD のどちらも TASKDATAKEY (USER) を設定してください。

< C I C S 定義 P P T 追加 >

P P T ( C I C S 用 プラグラム) に以下を定義します。

```
DEFINE PROGRAM(EZACICME) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC00) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC01) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC20) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC21) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC22) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC23) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EZACIC24) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
LANGUAGE(ASSEMBLER) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
```

\* サンプルは xxxxx.TCPIP.SEZAINST(EZACICPT) にあります。

P P T ( C I C S 用 M A P S E T) に以下を定義します。

```
DEFINE MAPSET(EZACICM) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(FOR TCP/IP)
RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL) USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED)
```

\* サンプルは xxxxx.TCPIP.SEZAINST(EZACICPT) にあります。

P P T ( A P P L 用 ) に以下を定義します。

```
DEFINE PROGRAM(EXPOLSTN) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS TCP/IP LISTENER)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EXPOPARM) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS PROCESS OVERRIDE PARMETERS)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(USER) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EXPORISC) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS ROUTER FOR ISC1)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EXPORISO) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS ROUTER FOR ISO1)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EXPOTCHD) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS TCP/IP CHILD TASK)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EXPOTISC) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS TCP/IP VERSION ISC1)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
DEFINE PROGRAM(EXPOTISO) GROUP(EXPPPTS)
DESCRIPTION(EXP/CICS TCP/IP VERSION ISO1)
  LANGUAGE(COBOL) RELOAD(NO) RESIDENT(NO) USAGE(NORMAL)
  USELPACOPY(NO) STATUS(ENABLED) CEDF(YES) DATALOCATION(ANY)
  EXECKEY(CICS) CONCURRENCY(QUASIRENT) DYNAMIC(NO)
  EXECUTIONSET(FULLAPI) JVM(NO) HOTPOOL(NO)
```

\* サンプルは HOCA450.F5(EXP4xT45) にあります。

< C I C S 定義 F C T 追加 >

F C T ( C I C S 用) に以下を定義します。

```
DEFINE FILE(EZACONFG) GROUP(EXPFCTS)
  RLSACCESS(NO) LSRPOOLID(1) READINTEG(UNCOMMITTED)
  DSNSHARING(ALLREQS) STRINGS(1) STATUS(ENABLED)
  OPENTIME(FIRSTREF) DISPOSITION(SHARE) DATABUFFERS(2)
  INDEXBUFFERS(1) TABLE(NO) MAXNUMRECS(NOLIMIT)
  UPDATEMODEL(LOCKING) LOAD(NO) RECORDFORMAT(V) ADD(YES)
  BROWSE(YES) DELETE(YES) READ(YES) UPDATE(YES) JOURNAL(NO)
  JNLREAD(NONE) JNLSYNCREAD(NO) JNLUPDATE(NO) JNLADD(NONE)
  JNLSYNWRITE(YES) RECOVERY(NONE) FWDRECOVLOG(NO)
  BACKUPTYPE(STATIC)
```

F C T ( A P P L 用) に以下を定義します。

```
DEFINE FILE(EXPDKEY) GROUP(EXPFCTS)
  DESCRIPTION(EXPEDITE/CICS UNIQUE KEY FILE)
  RLSACCESS(NO) LSRPOOLID(1) READINTEG(UNCOMMITTED)
  DSNSHARING(ALLREQS) STRINGS(3) STATUS(ENABLED) OPENTIME(STARTUP)
  DISPOSITION(SHARE) DATABUFFERS(4) INDEXBUFFERS(3) TABLE(NO)
  MAXNUMRECS(NOLIMIT) UPDATEMODEL(LOCKING) LOAD(NO)
  RECORDFORMAT(V) ADD(YES) BROWSE(YES) DELETE(YES) READ(YES)
  UPDATE(YES) JOURNAL(NO) JNLREAD(NONE) JNLSYNCREAD(NO)
  JNLUPDATE(NO) JNLADD(NONE) JNLSYNWRITE(YES) RECOVERY(NONE)
  FWDRECOVLOG(NO) BACKUPTYPE(STATIC)
```

\* サンプルは HOCA450.F5(EXP4xT45) にあります。

< C I C S 定義 D C T 追加 >

D C T ( C I C S 用) に以下を定義します。

```
DEFINE TDQUEUE(TCPM) GROUP(CFEDCT)
  TYPE(EXTRA) DATABUFFERS(1) DDNAME(TCPDATA) ERROROPTION(IGNORE)
  OPENTIME(INITIAL) TYPEFILE(OUTPUT) RECORDSIZE(132)
  BLOCKSIZE(136) RECORDFORMAT(VARIABLE) BLOCKFORMAT(UNBLOCKED)
  DISPOSITION(SHR)
```

D C T ( A P P L 用) に以下を定義します。

```
DEFINE TDQUEUE(EXPT) GROUP(CFEDCT)
  TYPE(EXTRA) DATABUFFERS(1) DDNAME(EXPTCPIP) ERROROPTION(IGNORE)
  OPENTIME(INITIAL) TYPEFILE(OUTPUT) RECORDSIZE(129)
  BLOCKSIZE(133) RECORDFORMAT(VARIABLE) BLOCKFORMAT(UNBLOCKED)
  DISPOSITION(SHR)
DEFINE TDQUEUE(QPRM) GROUP(CFEDCT)
  TYPE(EXTRA) DATABUFFERS(1) DDNAME(EXPDPRM) ERROROPTION(IGNORE)
  OPENTIME(INITIAL) TYPEFILE(INPUT) RECORDSIZE(80) BLOCKSIZE(80)
  RECORDFORMAT(FIXED) BLOCKFORMAT(BLOCKED) DISPOSITION(SHR)
```

\* マクロ定義時のサンプルは HOCA450.F3(EXPXDCTI, EXPXDCTS) にあります。

### < C I C S 定義 立ち上げ J C L >

立ち上げ J C L に以下を定義します。

```
//STEPLIB
//      DD DISP=SHR, DSN=TCPIP. SEZALINK

//DFHRPL
//      DD DISP=SHR, DSN=TCPIP. SEZATCP

//TCPDATA DD SYSOUT=*, DCB=(DSORG=PS, RECFM=V, BLKSIZE=136)
//SYSTCPD DD DSN=TCPIP. SEZAINST (TCPDATA), DISP=SHR

//EXPDKY DD DSN=xxxxxxxx. EXPDKY, DISP=SHR
//EXPDP RM DD DSN=xxxxxxxx. EXPDP RM, DISP=SHR
//EXPTCPIP DD SYSOUT=*
//EZACONFG DD DSN=xxxxxxxx. EZACONFG, DISP=SHR
```

### [ 4 . 4 ] A P P L 定義

#### < A P P L 定義 E X P D P R M >

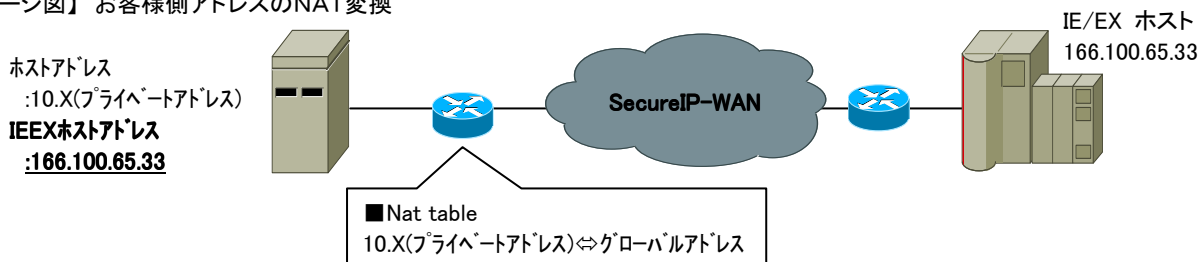
E X P D P R M 内に以下を定義します。

```
//* COL 1- 3 VALUE OF COMM SNA OR TCP
//* COL 4- 7 VALUE OF MAXSOC NUMBER LESS THAN OR EQUAL TO 2000
//* COL 8-22 USER IP ADDR FORMAT=xxx. xxx. xxx. xxx
//* COL 23-27 USER PORT NUMBER IF PORT NUMBER 3005
//* COL 28-35 MVS JOBNAME OF THE TCP/IP ADDRESS SPACE
//* COL 36-40 SESSION TIMEOUT VALUE IN HMMSS FORMAT
//* COL 41-45 ACTIVITY TIMEOUT VALUE IN HMMSS FORMAT
//* COL 46-60 IE IP ADDR FORMAT=166. 100. 65. 33
//* COL 61-65 IE PORT NUMBER 3003
//* COL 66-68 SEND SESSIONS NUMBER OF REQUESTED SEND
//* COL 69-71 RECEIVE SESSIONS NUMBER OF REQUESTED RECEIVE
//* COL 72-80 BLANK FILLER
TCP0050xxx. xxx. xxx. xxx03005TCP/IP 0050000500166. 100. 65. 33 03003010010
```

## [ 4 . 5 ] NAT 変換

Expedite/CICSはIE/EXホストアドレスとして、固定IPアドレス（166.100.65.33）を使用しています。お客様側アドレスのNAT変換を使用するためには、以下の設定が必要です。

【イメージ図】 お客様側アドレスのNAT変換



### < EXPDPRMファイルの変更 >

EXPDPRMファイル内を以下のように設定します。

- xxx. xxx. xxx. xxx : お客様側ホストのプライベートアドレスを入力 (例 10. X)
- yyy. yyy. yyy. yyy : お客様側ホストのグローバルアドレスを入力 (例 210. x)
- 1行目の72桁目に“Y”を入力

【EXPDPRMサンプル】

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8
***** Top of Data *****
TCP0050xxx. xxx. xxx. xxx03005TCPIP  0050000500166. 100. 65. 33  03003010010Y
yyy. yyy. yyy. yyy
***** Bottom of Data *****
  
```

注意：

### < PORT番号1720について >

セキュアIP接続用のお客様側CISCOルータにNAT変換の定義のある時は、IE/EXとのTCP/IP接続時にお客様側でPORT番号1720は使用できない可能性があります。使用できない場合、CISCOルータはこのパケットが来るとエラーパケットとして破棄しています。この使用できない可能性を回避するため、Expediteの使用時にお客様HOSTのTCP/IPシステムで、あらかじめPORT番号1720を使用しないように設定をしてください。

PROFILE. TCP/IPに以下を追加します。

```

PORT
1720 TCP ERRPORT          ; Error Port Number
  
```

## [5] サポートされない機能について

Expedite 製品はNMSへの接続を前提として作成されておりますが、国内のサービス（国内IE/EXまたは国際IE）のバージョンにより、現在使用できない機能がありますのでご注意ください。

下記の機能はサポートされません。ライトアップ及びマニュアルの記述で次に該当する部分は使用できませんのでご注意ください。

### 国内IE/EXでサポートされない機能

- データの圧縮/解凍 (Data Compression/Decompression)

### 国際IEでサポートされない機能

- データの圧縮/解凍 (Data Compression/Decompression)